

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
220013	X-13/31-B-1-220013	2	後期	【1年次生】国際学部国際化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際化学科	×	×	×
社会情報システム	藤田 晴啓			【2年次生以上】国際学部国際化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	選択	3年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	選択	3年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	1年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	1年

授業目的

本講義は情報文化学部ディプロマポリシーの「情報システム学について理解し、情報システム領域の基本的な専門知識を習得する」こと、特にわれわれの日常生活に欠かせない社会情報メディアに関わる知識習得および課題解決への素案を作成できることを目的とする。

スマートフォンに代表される携帯通信機器はマルチメディア化して、通話よりも情報検索やソーシャルネットワークサービスに多用されている。Suicaやキャッシュカードに代表されるICカードは、通貨の電子化、個人認証の高度化、課金処理の高速安全化、購買ビジネスの電子化を一層進めた。これらの社会情報システムはわれわれの生活に密着し、なくてはならないものとなっている。私たちが日常よく使う社会情報システムを情報メディア、アプリケーションとそのユーザを情報社会ととらえ、社会における役割、コミュニケーションの特徴や情報メディア化されたことによる、多様な問題を解き明かす。さらに、今後の情報システムの進化を予測する上で現実空間に仮想オブジェクトを置き、コミュニケーションや作業を行う、ミドル・リアリティ（MR、複合現実ともよぶ）にも注目する。社会情報メディアが今後どのように進化して行くのか、履修生は自ら予測する課題ワークを実行し、そのアイデアを共有する。情報の偏在化、情報空間の疑似環境等にもスポットをあて、社会的な側面から、私たちの生活にどのように関わっているのか、さらに今後どのように変化するかを予測する。

各回毎の授業内容

第1回 【授】授業の目的、めざすところ、テクノロジーとしてのメディア 【前・後】テキスト2-25講読予習2時間、テキスト7章末課題2時間 第2回 【授】通信ネットワーク、携帯電話の進化 【前・後】テキスト40-50講読予習2時間、テキスト51章末課題2時間 第3回 【授】メディアの携帯化と偏在化 【前・後】テキスト52-60講読予習2時間、レポート1出題2時間 第4回 【授】知覚を補助するメディア 【前・後】テキスト62-70講読予習2時間、章末課題出題2時間 第5回 【授】リアルミュージアムとバーチャルミュージアム（外部講師、実施回は講師の都合により変更されます） 【前・後】バーチャルミュージアム自主調査2時間、レポート2出題2時間 第6回 【授】ソーシャルメディア 【前・後】テキスト72-78講読予習2時間、テキスト79章末課題2時間 第7回 【授】社会インフラとサービス 【前・後】テキスト80-88講読予習2時間、テキスト89章末課題2時間 第8回 【授】ビジネスを支えるメディア 【前・後】テキスト90-96講読予習2時間、テキスト97章末課題2時間	第9回 【授】教養とエンターテインメント 【前・後】テキスト98-108講読予習2時間、テキスト109章末課題2時間 第10回 【授】生活環境を支えるメディア 【前・後】テキスト110-117講読予習2時間、テキスト118章末課題2時間 第11回 【授】社会情報システムとしての「社会保障・税番号制度」 【前・後】配布資料講読予習2時間、配布資料の整理2時間 第12回 【授】メディアと情報モラル 【前・後】テキスト120-128講読予習2時間、テキスト129章末課題2時間 第13回 【授】メディアと人間の発達 【前・後】テキスト130-136講読予習2時間、テキスト137章末課題2時間 第14回 【授】メディア社会の行方 【前・後】テキスト138-142講読予習2時間、レポート3出題2時間 第15回 【授】講義のまとめ 【前・後】レポート3作成2時間、定期試験準備2時間 第16回 【授】定期試験 【前・後】定期試験準備2時間
--	--

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験	30	35					65
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	10	5	10		10		35
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

レポート講評は授業中に、定期試験講評は採点后にポータルにて行う。

教科書参考書

教科書「情報メディア論 テクノロジー・サービス・社会」 講談社
 小泉宣夫 圓岡偉男 著 講談社 2400円税別

受講に当たっての留意事項

教科書なしでの受講は禁止します。2回目の講義で教科書持参していない場合はその場で購入に行ってもらいます。着席は指定席とします。出席管理システムでの不正（実際に授業に出ていない）は厳正に対処します。授業ノートの写真撮影は禁止します。各自自筆ノートを作成してください。レポート等の剽窃（盗用）はどちらが盗用したかにかかわらず、D判定となります。私語厳禁、まわりに迷惑を与えるので、注意は1回まで（2回目以降で退席を勧告します）。授業中のスマートフォン等携帯端末使用は、即刻退席してもらいます。

学習到達目標

- ・社会情報メディアを理解し、コミュニケーションにおける特徴等の知識を習得する（定期試験：25%）。
- ・オーギュメント・リアリティ、ミドル・リアリティが今後の社会メディアで担う役割を説明できるようになる（定期試験：15%）。
- ・多種のソーシャルメディアを年代別利用状況および経年変化データにて学び、それらの要因を説明できるようになる（定期試験：25%）。
- ・マルチメディアによる社会情報の可視化が社会インフラとして如何に重要を理解する。またバーチャルミュージアムに代表される情報技術の応用とはどのようなものか、具体例を学習する（レポート：35%）。

JABEE

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習